

5月5日は「わかめの日」

『わかめ祭』で4,500名にわかめを無料配布

1983年、日本わかめ協会は5月5日を「わかめの日」に制定した。わかめは栄養価が高く、出産した女性の母乳の出が良くなると言われている。韓国では出産した母親の初めての食事としてわかめスープが出されたり、誕生日の朝にはわかめスープを飲んで母親に感謝する、などの風習がある。それらの風習や、子どもたちにも多く食べてもらいたいという願いから、こどもの日である5月5日をわかめの日に制定した。また、わかめの採取が4月末にはほぼ終わり、新わかめが市場に出回るこの時期に、わかめの良さを知ってほしい、との想いもあった。



茎付きの生わかめ

協会ではこの日に合わせ、『わかめ祭』として街頭でのわかめの無料配布や、産地などの情報を伝えるパネル掲示を行ってきた。これまで銀座や名古屋、大阪、仙台など各都市で配布。配布時には長蛇の列ができ、茎わかめなど4,500名分が2



昨年は伊勢で『わかめ祭』を開催

時間弱でなくなることもあった。東日本大震災以降は岩手県・宮城県の協力を得て、復興のために両県産のわかめを積極的に配布している。

2005年の『愛・地球博』では、わかめの食べ方などを展示し、無料配布を実施。昨年は伊勢志摩サミットに合わせ、伊勢神宮内宮にほど近い“おかげ横町”でわかめ祭を開



『愛・地球博』でわかめの魅力をPR

催し、伊勢神宮にわかめを奉納した。

W-1グランプリに後援

協会は1978年にわかめの問屋、加工・輸入業者などが集まり設立。記念日の制定当初はまだわかめの消費量が現在の半分程度で、多くの人に食べてもらおうと無料配布を始めた。近年ではカットわかめの台頭などで、食べたことがないという人は少なくなり、当初の目的を達成できたとして、今後は無料配布以外の活動を実施したいという。スーパーなどの小売業に向けてわかめの日の販促物を提供するなど、売場から消費拡大に繋がるような策を考えている。

また、協会は“しもきた商店街”（東京都世田谷区）で2014年から行われている『W-1グランプリ』を後援している。このイベントはしもきた商店街振興組合が主催する、岩手県陸前高田市の広田湾で採れたわかめを使ったレシピコンテストで、震災からの復興を目的に開催されている。例年11～12月頃に行われ、昨年で3回目。産地と消費地を繋げ、多くの人にわかめの魅力を伝えている。協会の会長理事岩崎誠氏（松栄社長）は「このイベントはわかめの良さや新たな食べ方を知ってもらえる良い機会で、食育にも繋がる。今後はもっと深く関わり、協力していきたい」と述べる。



W-1グランプリではレシピをもとに商店街の地元高校生が調理した

わかめを知らない、食べたことがないという人はあまりいなくても、おいしいわかめの食べ方を知らない人はまだ多い。協会では産地や加工による味の違いなど、わかめの魅力を十分に伝えるため、今後も活動を続けていく。